

水痘とMR(麻しん・風しん)予防接種は 済んでいますか？



水痘(水ぼうそう)と予防接種

水痘(水ぼうそう)は直接接触やせき・くしゃみなどの飛沫によって広がる、感染力の強い感染症です。かゆみや発熱を伴う発疹が主な症状で、保育所・幼稚園・学校への登園・登校はすべての発疹がかさぶたになるまで(およそ2週間)停止となります。

また、大人になって水痘にかかると重症になりやすい傾向があります。

水痘を確実に予防するためには2回の予防接種が有効です。1歳のお誕生日から、3歳のお誕生日の前日まで2回の予防接種が無料で受けられます。

麻しん・風しんと予防接種

麻しんウイルスは感染力が強く、接触・飛沫感染だけでなく空気感染もするため、予防接種を受けないでいると多くの人がかかり流行します。主な症状は高熱・せき・鼻汁・結膜炎・発疹ですが、重症になると死亡する危険もあります。また、肺炎・中耳炎・脳炎などの合併症を引き起こすこともあります。

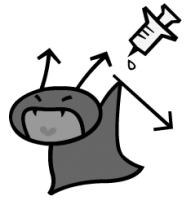
風しんウイルスは飛沫感染し、2～3週間の潜伏期間の後、かぜ症状・発疹・発熱・後頸部リンパ節腫張などを起こします。また、妊娠中に風しんにかかると、胎児が先天性風しん症候群(先天性の心臓病・白内障・聴力障害・発育発達遅延など)になる可能性が高くなります。

麻しん・風しんにかからないため、うつさないために、MR(麻しん・風しん)予防接種が有効です。1回目(1期)は1歳のお誕生日～2歳のお誕生日の前日まで、2回目(2期)は小学校就学前の1年間(幼稚園・保育園の年長)であれば無料で受けられます。

水痘とMR(麻しん・風しん)予防接種は対象年齢をすぎると有料となります。

接種の時期や料金についてはかかりつけ医にご相談ください。

「おたふくかぜ」を知っていますか？



おたふくかぜはムンプスウイルスの飛沫感染で起こり、近年では3年程度の周期で流行しています。

2～3週間の潜伏期間があり、症状としては、耳の下から舌の下・あごにかけての腫張、発熱などがあります。また、腫れが始まってから5日間は周囲の人に感染する恐れがあるため、かかってしまったら保育所や学校を長期間お休みしなくてはなりません。

また、おたふくかぜには様々な合併症があり、無菌性髄膜炎・脳炎・膵炎・男性は精巣炎・女性は卵巣炎の他、難聴を起こすことがあります。平成27年・28年の流行時におたふくかぜにかかった人の400～1,000人に一人の割合で難聴が発生したと報告されています。一度おたふくかぜによる難聴になると、聴力が回復することはありません。

おたふくかぜの予防には、ワクチン接種しか方法がありません。ワクチンの効果は約80%とされており、予防接種をすると発症してもほとんどの人は軽く済んでいます。おたふくかぜワクチンは、遅くとも3歳より前に接種し、5～6歳で2回目の接種をすることが日本小児科学会で推奨されています。

※ただし、おたふくかぜワクチンは、まだ予防接種法に基づいた「定期予防接種」ではないため有料となります。接種の時期や料金についてはかかりつけ医にご相談ください。

